

前田まちづくりセンター発行の情報誌です。年4回、地域の活動などをご紹介します。

## もしもの時に備えて～避難所運営研修が行われました

地域防災力の向上を目的に、地域のみなさんや避難所の運営を担当する区役所の職員、避難所となる学校の教職員を対象として、札幌市危機管理対策室が基幹避難所である市内の小中学校で開催する「避難場所運営研修」。前田地区では、1月11日に前田北中学校、同13日に前田中学校の2か所で行われました。なお、前田中学校では、昨年8月に開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、この日に延期になったものです。

それぞれの会場では、地域の方約20名、区職員8名、教職員4名が参加。まずは、主催者より、避難所の開設・運営の基本的な考え方や新型コロナウイルス感染症の感染対策を取り入れた避難所の初動対応についての講義や防災行政無線の取扱い方法の説明があり、次に、校舎内を回り、防災備蓄物資の保管場所や受水槽、避難所入口の暗証番号キーボックスの確認を行いました。

その後、避難所運営ゲーム（HUG）を実施しました。HUG（ハグ）とは、H（Hinanzyo 避難所）、U（Unei 運営）、G（Game ゲーム）の頭文字を取ったもので、避難者の年齢や性別、国籍、それぞれが抱える事情が書かれたカードを、体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また、避難所で起こる様々な出来事にどう対処していくかを模擬体験するゲームです。参加者は、7、8人のグループに分かれ、障がいをお持ちの方や乳幼児等への配慮をしながら部屋割りを考え、また、仮設トイレの配置などの生活空間の確保、取材対応といった出来事に対して、思いのままに意見を出し合ったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所運営を学びました。（前田北中学校の会場では、感染予防のため、ゲームの概要の説明のみに留めました。）

また、1月14日には、前田中央小学校で、手稲区役所による「避難所実地研修」が行われ、地域の方や教職員ら19人が参加しました。

区職員から避難所開設までの流れの説明があった後、学校内の諸教室や備蓄庫、ポンプ室、キーボックスなどの設備の確認を行ったほか、避難所に備蓄されている段ボールベッドの組立てを行いました。参加者は、真剣な表情で耳を傾け、質問をしながら積極的に避難所施設の確認を行い、地域住民による自主的な避難所運営の重要性を再認識した様子でした。



1/11(火) 前田北中学校  
防災備蓄物資の保管場所を確認



1/13(木) 前田中学校  
講義に聴き入る参加者



1/14(金) 前田中央小学校  
段ボールベッドの組立てを体験

## 「前田まちのお宝写真コンテスト」のパネル展を開催

前号にてお知らせしたとおり、1月13日（木）から16日（日）までの間、JR手稲駅あいくるにて、小学生による「前田まちのお宝写真コンテスト」（前田ふれあいまちづくり協議会主催）の応募作品を展示したパネル展を開催しました。

このパネル展では、受賞作品を中心に、応募のあった92点の全作品が展示されました。子どもたちの目線で、ふるさと「前田」の魅力がイキイキと表現された作品に、訪れた人たちの目がくぎ付けになっていました。



## 子育てサロン「まえだっこ」でクリスマス会を開催

12月10日（金）、子育てサロン「まえだっこ」で、恒例のクリスマス会が行われました。

「まえだっこ」は、前田まちづくりセンターで月に1回行っていますが、この日は「クリスマス会」を開催。クリスマスソングを歌ったり、人形劇を見たりと親子で楽しんだ後、サンタクロースが登場。不思議そうな表情でサンタクロースを見つめていた子供たちも、プレゼントをもらおうと笑顔になり、楽しい一日となりました。



## 花苗で街並みを彩ってみませんか？

今年も、土木センターでは、歩道美化事業の一環として、街路樹のますに植える花苗を配布します。町内会や商店街などの団体が対象で、昨年度、前田地区では、16団体がこの事業に参加しました。申込書は、手稲区土木センターのほか、前田まちづくりセンターにもあり、申し込みは4月1日から28日まで。花苗の配布は、5月6日から31日までを予定しています。

